

令和３年度第１回秋田県地域公共交通活性化協議会の概要

日 時 令和３年６月８日（火） 午後１時３０分～午後２時４０分
場 所 各委員の職場・自宅等からのリモート開催
参 集 委員２４名中１９名参加（５名については後日書面協議）

【概 要】

１ 開 会

委員２４名中代理を含む１９名が参加し、残り５名についても後日の書面協議について承諾があり会議が成立

２ あいさつ

会長の嘉藤県観光文化スポーツ部長があいさつ
以降会長が議長として議事進行

３ 説明事項

（１）地域公共交通をめぐる秋田県の現状と支援施策
資料１に基づき、事務局が説明

《質疑等》
特になし

（２）秋田県地域公共交通計画の策定について
資料２に基づき、事務局が説明

《質疑等》
特になし

４ 議 題

（１）生活交通維持確保改善計画（地域間幹線系統確保維持計画）の承認について
資料３－１～４に基づき、事務局が説明

《意見・質疑等》
湊屋委員（秋田県高等学校ＰＴＡ連合会）
バス会社への補助だけではなく、バス利用者への補助があれば利用者も増えるのではないかと。利用者への支援を充実させることで利用者が増え、収支率の改善につながるのではないかと。

事務局

国や県では乗合バスの利用者向けの支援メニューというのは現在のところないが、各市町村において、資料の1でも一部紹介しているが、様々な取組を実施している。

湊屋委員（秋田県高等学校PTA連合会）

地元北秋田市の北鷹高校が開校10年を迎えたが、秋田内陸線を通学利用する生徒数が開校当時の120人から現在では5、60人と半数まで減ってしまった。こうした生徒数の減少が秋田内陸線のみならず公共交通にも影響しているのではないかと。

小玉委員（秋田県地域婦人団体連絡協議会）

資料2の「1-2 計画の区域」で、「課題の分析・整理にあたっては、日常生活の結びつきを考慮した6圏域（北秋田・鹿角、山本、秋田、由利、仙北、平鹿・雄勝）ごとに行う」と説明があったが、このうち南秋地域は「秋田」に含まれるという理解で良いかと。

事務局

お見込みのとおりである。

伊藤委員（秋田県身体障害者福祉協会）

地元の南秋地域では、南秋広域マイタウンバスの取組が実現し、五城目町地域公共交通会議の委員としても大変うれしく思っている。このような取組が他の地域でも広がれば良いと思うがどうか。

事務局

南秋地域の取組は他の地域のモデルとなると認識しており、県内で同じような条件の地域があれば、市町村の枠を越えて広域的な連携が出来るよう、県も支援したいと考えている。

藤島委員代理（秋田県レンタカー協会）

生産性の向上の取組として記載されているものは、事業者側の取組が記載されており、やや利用者不在に感じてしまう。利用者の声をもっと聞いていくのが良いのではないかと。

高校の近くに住んでいるが、バスではなく家族の車による送迎が多いと感じている。通学利用が増えると収支率の改善につながるのではないかと。

事務局

県としては、本協議会の他にも市町村の交通会議に参加するなどして、利用者のご意見を伺う機会を大事にしているが、ご指摘のあった生産性向上の取組の中にはそれが十分反映されているとは言い切れず、次年度以降、内容を改善

していきたい。自家用車による送迎が増えていることについては、県よりもむしろ各事業者が影響を実感しているのではないか。

齋藤委員（秋田県バス協会、羽後交通、秋田県観光連盟）

ダイヤを間引きすぎて利便性を損なった過去の反省から、通学のダイヤについてはほぼ減らさず維持している。以前だと天気が悪い日はバスの売上が上がると言われていたが、最近ではバス停まで歩くのが嫌だという生徒もあり、親が学校まで送迎するなど、親と子の関係も以前とは変わってきている。天気が悪い日でも売上はさほど変わらなくなっており、バス会社も苦労している。

伊藤委員（秋田県身体障害者福祉協会）

高校生が雨の中でも路肩でバスを待っている。（整備主体が）県なのか町なのかバス会社なのかわからないが利用しやすくするため待合所の整備はできないか。

事務局

この場ですぐにお答えすることは難しいが、南秋地域の協議会でも話をしたい。

玉田委員（東北運輸局秋田運輸支局）

公共交通をいかに維持していくかはいかに利用してもらうかということだと思う。普段はバスにあまり乗らないが、もしもの時に使うため無くなってしまっただけで困るという人も多いが、無くなったら困る、だから利用していこうという意識付けが重要だと思う。由利高原鉄道でも利用者を増やすために様々な努力をしているが、萱場社長からもご意見を伺いたい。

萱場委員（由利高原鉄道）

当社でも高校生の定期利用が落ち込んでいたが、今年4月から思い切って高校生の定期券購入について半額助成を行ったところ、思った以上に売上が伸びた。保護者からの評判も良く、この取組を続けることで、売上の回復に寄与できていると考えている。中学生への割引などまだまだいろいろと試す余地はあると考えている。

玉田委員（東北運輸局秋田運輸支局）

今回策定する計画にも利用者、住民への意識付けの部分をぜひ入れ込んでほしい。

日野委員（秋田大学大学院理工学研究科准教授）

これから作る計画では、幹線と幹線以外という線引きではなく、ぜひ県全体として交通にどう関わっていくかの意欲を示してほしい。県の計画があること

で市町村にもあって良かったと思ってもらえるような計画になれば良い。

《議 決》

「生活交通確保維持改善計画」は承認された。

5 その他

- ・資料4に基づき、事務局が県の新規事業（地域公共交通情報デジタル化推進事業、地域公共交通チャレンジ事業）について説明

《委員から》

特になし

6 閉 会